

達成目標

1 伊那谷の未来を創る「ひと」づくり

指標名	現状	目標
新規就農者数	15.6人/年 (2019~2021年度平均)	18人/年 (2027年度)
新規林業就業者数	14.3人/年 (2019~2021年度平均)	17人/年 (2027年度)
若年層(20~24歳)の社会増減	△255人 (2021年)	△193人 (2027年)

2 誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり

指標名	現状	目標
製造業の従業者一人当たり付加価値額	1,081万円/人 (2019年)	2019年比+11.2% (2025年)
農産物産出額	203億円 (2020年)	206億円 (2026年)
林業生産額	11.5億円 (2020年)	13.2億円 (2026年)

3 人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり

指標名	現状	目標
観光地消費額	62億円 (2021年)	105億円 (2027年)
社会増減	△530人 (2018~2022年累計)	+345人 (2023~2027年累計)
地域おこし協力隊員の定着率	85.3% (2017~2021年度平均)	85.3% (2023~2027年度平均)

4 22世紀も二つのアルプスにライチョウが生息し続けられる「脱炭素社会」づくり

指標名	現状	目標
二酸化炭素排出量	1,279千t-CO ₂ (2019年度)	924千t-CO ₂ (2025年度)
木質バイオマス※生産量(ペレット)	4,074t (2021年度)	6,000t (2027年度)
民有林における造林面積	32.5ha (2021年度)	114ha (2027年度)



【用語解説】

ウッドチェンジ…生活必需品を木質製品へ転換すること
 キャリア教育…一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育むことを通して、キャリア発達を促す教育
 再造林 ……人工林を伐採した跡地に再び苗木を植えて人工林をつくること
 地消地産 ……地域にある資源を活用して、地域で消費するものを地域で生産する取組
 つながり人口…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々。「関係人口」とも呼ばれる
 木質バイオマス…「バイオマス」とは「バイオ(生物資源)」「マス(量)」を表し、生物由来の有機性資源のうち化石資源を除いたもので、森林の間伐材、家畜の排泄物、食品廃棄物などから生まれた生物資源の総称。そのうち木材からなるものを木質バイオマスという
 DMO ……観光地域づくり法人(Destination Marketing/Management Organization)の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略の着実な実施のための調整機能を備えた法人のこと
 ICT ……情報通信技術。情報技術の「IT(Information Technology)」に通信の「C(Communications)」を組み合わせた用語

長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」は、概ね2035年の長野県の将来像を展望し、これを実現するための5年間(2023~2027年度)の行動計画です。「地域計画」は、10の広域圏の地域振興局ごとに独自性を発揮し策定したもので、地域のめざす姿や重点的に取り組む政策を示しています。



← 計画本編はこちらから
(長野県公式ホームページ)

長野県上伊那地域振興局企画振興課

〒396-8666 長野県伊那市荒井3497
 TEL.0265-76-6801 FAX.0265-78-2116
 E-mail: kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

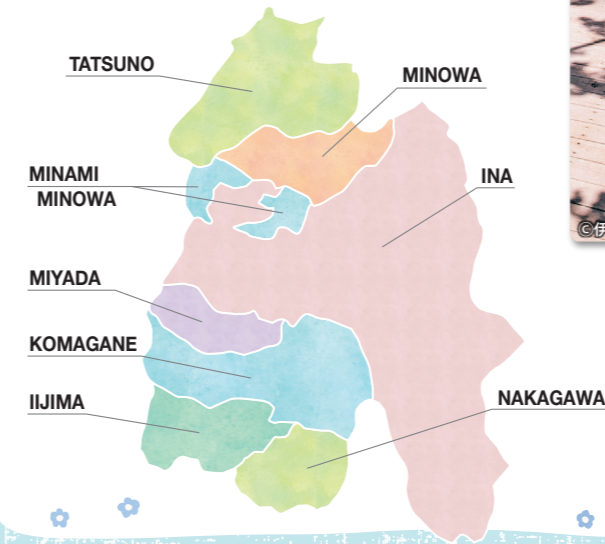
長野県総合5か年計画 しあわせ信州創造プラン3.0

～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～

上伊那地域計画

2023~2027

【概要版リーフレット】



地域の特性

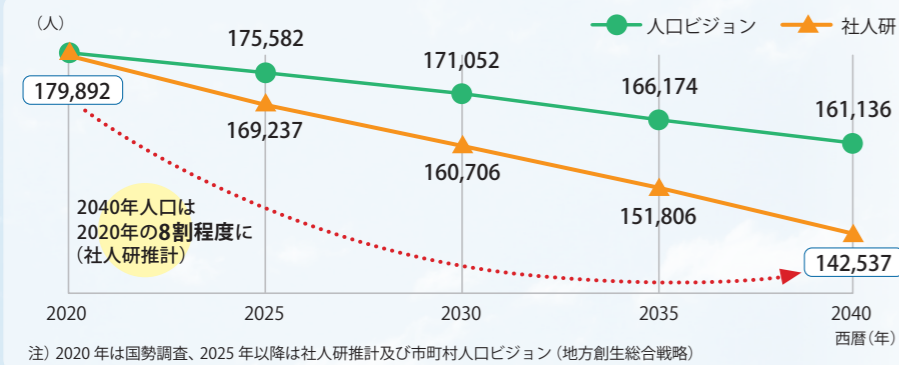
- 全国で唯一、二つのアルプス（南アルプスと中央アルプス）を展望できます。
- 首都圏・中京圏の中間に位置する立地と高い技術力を活かしたものづくりが盛んです。
- 全国トップクラスの良質な米をはじめ、野菜や果樹、花き、畜産など多様な農産物が生産されています。
- 地域の8割を森林が占め、カラマツなど豊富な森林資源を有しています。
- リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備により、都市圏との更なる交流の拡大が期待されています。



©JR東海

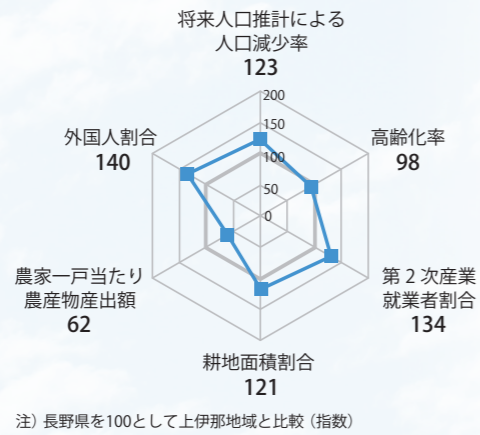
人口

- 将来人口推計における人口減少率は県平均を上回っています。



産業・暮らし

- 第2次産業の就業者割合は県平均を上回っています。
- 耕地面積割合は県平均を上回っているものの、農家一戸当たりの農産物産出額は県平均を下回っています。
- 医療従事者数は県平均を下回っています。



観光・交流

- 観光地延べ利用者数は全県の約5%、観光地消費額は約3%に留まっています。
- 外国人住民の割合は県平均を上回っています。
- 移住先として人気が高く、移住者数は増加傾向にあります。

脱炭素

- 木質バイオマス* (ペレット)の生産量が全県トップです。
- 森林づくり県民税を活用した森林整備が進んでいます。

地域のめざす姿

人々の思いが力が重なり 高まり 未来を創る 二つのアルプスに護られた水と森林と太陽の伊那谷

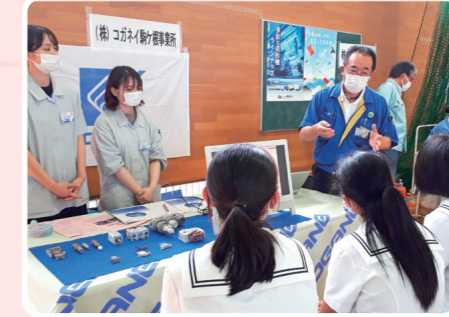
〈具体的な将来像〉

- リニア時代を迎え、雄大な自然の中で快適でゆとりある暮らしが営まれ、持続可能な活力ある地域
- 価値観やスタイルに応じた暮らし方・働き方を実現
- 医療・福祉、公共交通、教育等の生活基盤の充実や災害への備えが進む
- 多様な人や企業等が様々な関わりの中で地域の担い手として活躍
- 製造業や農林業は先端技術の導入等が進み、地域の基幹産業として発展
- 自然や文化など地域の魅力を活かした観光コンテンツが国内外で高い評価
- 森林資源や水資源等を活かした再生可能エネルギーの生産や利活用が拡大

地域重点政策

1 伊那谷の未来を創る「ひと」づくり

- 女性や若者など多様な人材が働きやすい環境の整備、就業・就職相談の実施等により、地域産業の担い手を確保・育成します。
- 産学官民が一体となった伊那谷全体でのキャリア教育*、学校と地域が協働した教育の推進等により、郷土に誇りと愛着を持てる人材を育成します。



2 誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり

- デジタル技術の活用促進、企業等の誘致、農林業技術の普及等により、産業を振興します。
- リニア中央新幹線等の整備を見据え、国道153号バイパス事業を推進します。
- 防災対策の推進、公共交通の利用促進等により、安全・安心の基盤を整備します。
- 医療従事者の確保、子育て支援等により、医療・福祉の充実を図ります。
- ICT*の活用、魅力的・先進的な高校づくり等により、学びの環境を整備します。
- 南アルプス・中央アルプスをはじめとする豊かな自然環境の保全と利活用を推進します。



3 人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり

- DMO*の取組支援、地域資源の掘り起こしや磨き上げ等により、南信州地域・木曾地域と連携した広域観光を推進します。
- つながり人口*の拡大、アクセス道路やリニア中央新幹線長野県駅(仮称)からの広域二次交通の整備等により、交流を促進します。
- 暮らしや仕事など総合的な魅力を上伊那地域全体で発信することにより、移住・定住を促進します。



4 22世紀も二つのアルプスにライチョウが生息続けられる「脱炭素社会」づくり

- 産学官民の連携による脱炭素社会の実現に向けた体制を整備します。
- 農業用水を活用した小水力発電や木質バイオマス*の地消地産*の促進、製造業の脱炭素化の支援等により、エネルギー自立地域に向けた取組を推進します。
- 主伐・再造林*主体の森林整備、ウッドチェンジ*等による地域産材の活用の推進により、二酸化炭素吸収増に向けた取組を推進します。



撮影：矢満田務